



平野 和生 議員

待たれる災害復旧

問 昨年の7月6日、7日に西日本を襲った豪雨により、本町においても、特に浮島が甚大な被害を受けたところである。

離島という悪条件の地に、いち早くかけつけて対応して下さった関係者の皆様、その後の猛暑の中、ボランティア活動に参加して下さった皆様方には心より感謝している。

被害を受けた民家一軒は公費での解体となったが、他の二軒は年内に、漁協事務所は2月半ばに復旧することができた。

しかし、被害の爪あととはひどく、国の災害査定を受けた町道11カ所のうち、2カ所の現場が2月になって工事が始まった。



手つかずのままの崩落力所

しかしながら、最大の崩落力所はいまだに手つかずのままである。

その土石流で被災した民家二軒の住民の不安を一刻も早く取り除いてもらえるよう、早期着工を求める。

答 これらの被災力所は、11カ所で総額1億7,056万3千円の査定額となっており、平成30年度施工が6カ所、本年度は5カ所の復旧工事を進める予定となっている。

最大の崩落力所の工事は、道路だけではなく、その下方部分も大きく崩落しており、湧水処

理など、復旧に向けては大きな困難が予想される。

一日でも早い復旧に向けて作業を進め、より効率的に工事が進むよう努力していく。

海底送水管布設の展望は？

問 浮島海底送水管の布設工事は、昨年の6月に配水棟施設が完了し、本年度も3億円強の予算をつけていただき、神浦地区での加圧ポンプ所整備に着手されている。

布設工事は、台風のシーズンを避けて冬場に行われると思うが、その展望を伺う。

また、町長は施政方針の中で、非常用水源としての利活用を検討するため、旧簡易水道施設の水源井戸の調査を行うとしているが、浮島の現在の水源も残してもらえよう強く要望する。

答 海底送水管の布設スケジュールだが、海底部分に継ぎ手を設けない送水管の製作には相当の時間を要するため、来年1月まで製作を行い、その後掘え付ける予定としている。

また、海底送水管による水道水の供給開始後は、現在の簡易水道施設が過剰な設備となるため廃止する方針であるが、大島側の非常用水源確保とあわせ、飲料水の非常用水源として、維持管理の容易なものに限定して確保することを確認したいと考えている。

【製作・据付スケジュール】

製作と据付を合冊発注

- 2019.4 起工
- 2019.6 契約（議決案件）
- 2019.6～2020.1 製作
- 2020.1～2020.3 据付